

自然活用型野外CSR事業「やしろの森公園」建築工事

受賞機関 兵庫県県土整備部まちづくり局営繕課

はじめに

県下初めてのこの「やしろの森公園」は、自然活用型野外CSR事業として、様々な動植物が棲息する豊かな里山林と水辺環境を活用し、楽しみながら県民の手で森を守り育て、合わせて都市と農山村や世代間の交流によって、里山文化を育て発信することを目指している。その活動拠点としての施設設計のコンセプトは、里山環境に馴染むものとして日本古来の民家、特に農家を再現することであり、そのためには地場の伝統的技術、地場のエコマテリアル（環境に優しい自然素材）を活用することだった。

事業の概要

敷地約55haの公園整備内の拠点施設づくり

拠点施設：母屋とハナレ、木造平屋、
延べ211.4㎡

休憩所：四阿（兼農村舞台）、木造平屋、
延べ41.3㎡

屋外便所：木造平屋、延べ21.5㎡

計画・設計・監理：兵庫県まちづくり局営繕課

施工：板井建設（株）

工期：H11年12月17日～H12年6月30日

事業費：1億355万円（備品・公園整備費除く）

事業の特徴

母屋とハナレ、農村舞台を兼ねた四阿、屋外便所で構成され、江戸初期に遡る日本の民家としての伝統的木造工法を格式張らない質素な形で採用している。小屋組形式は松丸太400の投掛け梁の上に、京都美山町の茅葺き屋根に見るオダチ・トリイ組、屋根は軒の深い二重垂木（檜間伐材丸太120）で淡路瓦葺、柱礎石はゴロタ石、桁梁は松の盤木にチョンナー掛け、壁は竹小舞組に荒壁土（ワラスサ入り）塗り、腰壁は焼杉板張り、ドマは土のタタキ（マサ土+石灰+ニガリ+ワラスサ）仕上げ、木部は墨入りベンガラの古色塗りとしている。これら自然素材（木、土、竹、自然石、瓦等）は、400の松丸太を除いて



中世に見る日本の民家の小屋組（オダチ・トリイ組）を再現、囲炉裏・かまども設置



母屋軒下廻り：伝統的木造工法で架構を表わし、二重垂木で軒を深くしている。



左が農村舞台を意識した四阿（アズマヤ）、右は方形屋根の中央を坪庭にした屋外便所

全て県内で調達した。

平面構成も「摂津・丹波型」農家の妻入り縦割型を基本にし、広い土間空間に囲炉裏やカマドを備え、畳のザシキと板の間を配した。

「農家」としての設計コンセプトが、贅沢な材料を求めず、木材や石の加工手間を省力化し、地場の材料、地元の職人を多用したことがコスト縮減に繋がっており、建設副産物対策も地盤改良で基礎を小さくして残土を少なくし、残材も自然素材のため木材以外の石や瓦は周辺側溝に再利用している。

伝統的技術を有する地元大工や左官職人の選定に注意を払ってきたが、「久しぶりにいい仕事をさせてもらった」という棟梁の弁は、職人としての出来映えに対する自信の表れだろう。